

令和3年度「富山県企業局経営戦略」の進捗状況等について【電気事業】

1 経営状況等

○事業実績

	令和2年度	令和3年度
供給電力量(MWh)	418,860	480,185
料金収入(百万円)	4,902	5,051

○決算状況

		令和2年度	令和3年度
収益的収支 (百万円)	収入	5,098	5,987
	支出	3,721	4,489
	収支	1,376	1,499
資本的収支 (百万円)	収入	251	270
	支出	2,218	1,641
	収支	△ 1,967	△ 1,371

2 経営指標

	令和2年度	令和3年度
① 経常収支比率	136.9%	163.0%
② 累積欠損金比率	0.0%	0.0%
③ 流動比率	648.1%	854.5%
④ 自己資本構成比率	86.9%	87.3%
⑤ 有形固定資産減価償却率	65.4%	67.1%
⑥ 企業債償還元金対減価償却比率	30.7%	25.1%

3 取組状況

項目	令和3年度実績等
1 安定的収益の確保	
(1) 料金収入の安定的確保	・固定価格買取制度の適用を受けない15発電所(令和4年2月より16発電所)の売電単価について、令和2・3年度分を8.89円/kWhとプラス12.1%の増額改定契約を締結
(2) 設備利用率の維持、向上	・水力発電所(小水力を含む)の設備利用率は、融雪出水が平年並み(前年度は少雪)で降水量も多かったため、38.2%(前年度33.2%)となった。太陽光発電の設備利用率は前年度と同程度で、15.0%(前年度15.1%)となった。 ※設備利用率:年間発電電力量(kWh) / (設備容量(kW) × 年間時間数)
(3) コストの削減	・小矢部川第二発電所所内変圧器更新工事において、発注方法の見直しにより工事費削減 ・上百瀬発電所放水ロカメラ設置工事において、発電所運転停止時の放水路周辺状況を遠方から確認可能となったことにより保守管理費削減
(4) リパワリング	・国の補助事業を活用して、小矢部川第二発電所の水車ランナを高効率ランナに更新(最大出力は11,400kW→11,800kW(+3.5%)に増加) ・リプレース(全面的更新)を行う4発電所の発注仕様を現行比約160万kWh以上の電力量増に設定し工事契約
2 電力システム改革を踏まえた電力供給のあり方	
新たな電力供給のあり方等の検討	・県民福祉の向上につながる新たな電力供給形態として、公営電気事業では全国初となる子育て支援事業「とやまっ子すすく電気」を平成30年8月から実施 ・富山県の活性化と脱炭素化に資する新たな地産地消型の料金メニュー「とやま未来創生でんき」を北陸電力と共同で創設し、令和3年4月より供給開始
3 再生可能エネルギーの推進	
(1) 小水力発電等の推進	・リプレース(全面的更新)を行う4発電所において、平均的な小水力発電所約5.9台分相当の増電力となるよう発注仕様を設定し工事契約
(2) 地熱発電の事業化	・立山温泉地域において、地下約2,000mを探査できる手法による地表調査を実施(結果:地熱発電に必要な蒸気や熱水の存在は推定できたが、事業性を確保できる発電規模は見込めず)
4 計画的な更新・修繕工事等の実施	
(1) 効率的な修繕の実施	水力発電設備修繕(長寿命化)計画に基づき、効率的な修繕を実施
(2) リプレース(全面的更新)	・大長谷第二、仁歩、庄東第一の3発電所について、設計・施工を一括して契約する方式で発注し、工事を推進 ・若土発電所は、水車発電機等電気設備工事の推進と土木設備の発注を実施
(3) 修繕費用の平準化	・計画に基づき修繕工事を実施 ・水力発電設備修繕(長寿命化)計画に基づき、修繕を実施
5 人材の確保と育成	
人材の確保・育成・技術継承	・クレーン運転士、高圧・特別高圧電気取扱者、危険物取扱主任など電気事業に必要な資格取得に努めるほか、水力発電に関する研修、電気関連法規や電気設備に関する講習の受講を推進

改定戦略(R4.7改定)に基づく進捗状況

数値目標

1 発電能力の維持拡大

	基準(H29)	現状(R3)	目標(R8)	達成見通し	左記評価の説明
発電能力(MWh/年) (H29年度比)	515,095 (100.0%)	525,544 (102.0%)	537,175 (104.3%)	達成可能	小矢部川第二発電所の高効率ランナへの更新が完了し、リプレースも計画どおり進んでいる。
一般家庭換算(世帯数)	165,100	168,440	172,170		
対H29年度CO2削減効果(t/年) (平均的な小水力発電所換算)	— (—)	7,628 (3.7箇所)	16,118 (7.9箇所)		

2 故障による発電停止時間の縮減

基準(H28~R2平均値)	現状(R3)	目標(R8)	達成見通し	左記評価の説明
63.0	90.2	48以下	要努力	点検等による設備状態の把握に努め、適切な修繕等を行い、縮減に努めていく。

主な取組状況

項目	令和4年度実績(見込み)
1 電力システム改革への対応	
長期基本契約満了後の電力供給先の選定	電力システム改革の動向や他県の対応状況などについて幅広く調査・情報収集を実施。
2 計画的な更新・修繕工事等の実施	
リプレース(全面的更新)	リプレース(全面的更新)を行う4発電所において、民間活力を活用した設計施工一括発注方式による3発電所(庄東第一、大長谷第二、仁歩)の実施設計及び仮設工事、若土発電所の取水設備改良等工事を実施。
3 脱炭素社会の実現に向けた取組みの推進	
地熱資源の調査・研究	これまで実施した調査データ等の第三者評価を目的に地熱資源開発に関連する民間企業等に情報提供したほか、産学との連携による地熱開発研究やバイナリー発電の先進地視察を実施。
4 ICT等の先端技術の活用	
スマート保安の推進	電源の無い場所でも設置可能な遠隔監視カメラを導入、その効果や機材の耐久性などを検証。
5 人材の確保と育成	
中長期的視点からの技術職員の確保	より若い世代に企業局の業務や魅力を知ってもらえるよう、SNSを活用した動画を作成し発信。

令和3年度「富山県企業局経営戦略」の進捗状況等について【水道事業】

1 経営状況等

○事業実績

	令和2年度	令和3年度
契約水量(千m ³)	39,010	37,983
料金収入(百万円)	1,665	1,541

○決算状況

		令和2年度	令和3年度
収益的収支 (百万円)	収入	1,771	1,669
	支出	1,382	1,341
	収支	390	328
資本的収支 (百万円)	収入	289	179
	支出	1,141	717
	収支	△ 852	△ 537

2 経営指標

	令和2年度	令和3年度
① 経常収支比率	128.2%	127.8%
② 累積欠損金比率	0.0%	0.0%
③ 流動比率	434.1%	449.8%
④ 自己資本構成比率	75.0%	75.6%
⑤ 企業債残高対給水収益比率	226.7%	228.5%
⑥ 料金回収率	127.8%	125.6%
⑦ 給水原価	38.1円	36.8円
⑧ 施設利用率	68.9%	67.1%
⑨ 有形固定資産減価償却率	64.0%	65.5%
⑩ 管路経年化率	91.0%	93.7%

3 取組状況

項目	令和3年度実績等
1 安全・安心な水道用水の安定供給	
(1) 水安全計画の策定	・平成29年3月に「西部水道用水供給事業 水安全計画」を策定済みであり、この計画のもと、水質の管理、施設の点検、教育訓練、研修等を実施
(2) 事故発生時の対応	・令和3年11月、和田川ダムへの油の流入を想定した危機管理対応訓練を受水団体、関係機関と合同で実施 ・令和3年度、配水管の漏水が1件発生、迅速な復旧を図った。
2 施設の耐震・老朽化対策	
施設の耐震・老朽化対策の計画的な実施	・令和3年度は高岡市東海老坂地内で管路更新工事を実施
3 将来の施設更新に必要な料金収入の確保	
(1) 料金収入の確保	・令和3年度の料金収入は1,541百万円(前年度比△124百万円)となった。 ・令和3年度に新たな受給協定を締結(給水単価据置き65円/m ³ 、基本水量6%減量)
(2) 水道事業ビジョンの策定	・中長期的な視点に立つ戦略的な計画として、「持続」「安全」「強靱」の観点から、平成30年3月に「西部水道用水供給事業 水道事業ビジョン」を策定済
(3) コストの削減	・和田川浄水場、子撫川浄水場の電気機械設備の更新に合わせて、省エネ型のモーターや変圧器への更新を実施
4 人材の確保と育成	
人材の確保・育成・技術継承	・日本水道協会が主催する技術研修に参加
5 未活用資産の有効活用	
未活用資産の活用検討	・将来の水需要に対処するため確保してある水道用水源の有効活用に向けた検討や関係機関との協議を行った。

改定戦略(R4.7改定)に基づく進捗状況

数値目標

1 水道用水の安定供給達成率

	基準(H29)	現状(R3)	目標(R8)	達成見通し	左記評価の説明
達成率(%)	100.0	100.0	100.0	達成可能	西部4市へ安全・安心な水道用水を安定的に供給している。 (水減等の漏水対策や受水市町への事前調整を行った断水を除く)

2 水道管路の更新延長

	基準(H29)	現状(R3)	目標(R8)	達成見通し	左記評価の説明
優先更新延長(km)	4.4	5.6	9.0	達成可能	優先更新区間として最初に取り組んできた氷見線(5.8km)についてはほぼ完了し、次期優先更新区間の射水線についても設計業務に着手するなど、計画的に管路更新を進めている。

主な取組状況

項目	令和4年度実績(見込み)
1 料金収入の確保	
料金収入の確保	西部水道の条例料金について、責任水量制から二部料金制度へ移行。
2 施設の耐震・老朽化対策	
施設の耐震・老朽化対策	射水線の詳細検討業務委託を実施。

令和3年度「富山県企業局経営戦略」の進捗状況等について【工業用水道事業】

1 経営状況等

○事業実績

		令和2年度	令和3年度
契約水量		78,082千m ³	77,717千m ³
料金収入		1,823百万円	1,819百万円
附帯事業	ゴルフ練習場	入場者数 56千人	49千人
		料金収入 56百万円	49百万円
	神通川浄水場	供給電力量 2,278MWh	2,328MWh
	太陽光発電	料金収入 91百万円	93百万円

○決算状況

(単位:百万円)

		令和2年度	令和3年度
収益的収支	収入	2,122	2,120
	支出	1,430	1,588
	収支	693	532
資本的収支	収入	599	1,622
	支出	1,403	2,531
	収支	△ 804	△ 909

2 経営指標

	令和2年度	令和3年度
① 経常収支比率	148.5%	133.5%
② 累積欠損金比率	0.0%	0.0%
③ 流動比率	546.7%	660.6%
④ 自己資本構成比率	63.7%	65.6%
⑤ 企業債残高対給水収益比率	117.4%	133.3%
⑥ 料金回収率	144.9%	128.8%
⑦ 給水原価	16.0円	18.0円
⑧ 施設利用率	44.3%	45.5%
⑨ 有形固定資産減価償却率	65.2%	64.8%
⑩ 企業債償還元金対減価償却比率	31.8%	25.3%

3 取組状況

項目	令和3年度実績等
1 契約水量の確保	
(1) 契約水量の確保	・令和3年度の契約水量は77,717千m ³ (前年度比△365千m ³)となった。
(2) 収入の確保と適正な料金水準	・令和3年度の料金収入は1,819百万円(前年度比△4百万円)となった。
2 施設の耐震・老朽化対策	
(1) 施設の耐震化	・令和3年度は和田川浄水場の沈殿池耐震化設計を実施した。
(2) 管路の更新	・平成28年度から西部工業用水道の管路更新を実施しており、令和3年度は射水市橋下条～寺塚原地内で管路更新工事を実施
3 低廉で安定的な工業用水の供給	
(1) 低廉な工業用水の供給	・和田川浄水場の電気機械設備の更新に合わせて、省エネ型のモータ・変圧器への更新を実施
(2) 事故発生時の対応	・令和3年度、配水管の漏水が2件発生、工水ユーザーへの迅速な対応と復旧を図った。
4 経営改善・健全化	
(1) 経営基盤の強化	・新規受水希望者と打合せを実施
(2) 他会計借入金残高の削減	・電気事業会計に90百万円、一般会計に200百万円を償還し、借入金残高を低減
5 人材の確保と育成	
人材の確保・育成・技術継承	・日本工業用水協会が主催する技術研修に参加

○附帯事業(ゴルフ練習場)

項目	令和3年度実績等
1 収入の確保と経営の安定	
(1) 指定管理者制度の継続	・指定管理者制度(H24～)を継続し、経費節減等に努めている。(現行契約期間:H30～R4)
(2) 利用者の確保対策(利用の拡大とサービスの向上)	・アンケートにより利用者ニーズを把握するとともに、早朝割引、平日入場料無料、打ち放題の実施、プロによる無料レッスンなどにより、サービスの充実を図った。
2 施設・設備の改修	
老朽化した施設・設備の適切な改修	・打席棟扇風機の更新等を実施した。

○附帯事業(神通川浄水場太陽光発電)

項目	令和3年度実績等
1 収入の確保と経営の安定	
(1) 安定的な発電	・供給電力量は2,328MWh(前年度比+50MWh)、料金収入は93百万円(+2百万円)となった。
(2) 維持管理費等の経費節減	・大規模な故障を未然に防ぐため、適切に維持管理を実施

改定戦略(R4.7改定)に基づく進捗状況

数値目標

○工業用水道事業

1 工業用水の安定供給達成率

	基準(H29)	現状(R3)	目標(R8)	達成見通し	左記評価の説明
達成率(%)	100.0	100.0	100.0	達成可能	事前調整を伴わない無計画断水0件を目指す。(R3.5月 46社27時間、R4.3月 49社31時間計画的に給水停止)

2 工業用水道管の更新延長

	基準(H29)	現状(R3)	目標(R8)	達成見通し	左記評価の説明
優先更新延長(km)	2.4	5.6	10.5	達成可能	管路更新計画に基づき更新延長を行っている。

3 西部工水契約水量

	基準(H29)	現状(R3)	目標(R8)	達成見通し	左記評価の説明
契約水量(千m ³ /日)	217.0	205.0	209.0	達成可能	新規ユーザーへの給水開始が見込まれている。

○ゴルフ練習場事業

1 安定収入の確保

	基準(H29)	現状(R3)	目標(R8)	達成見通し	左記評価の説明
収益(百万円)	54	49	56	要努力	新型コロナの感染拡大に伴い、県の全ての公の施設において臨時休館(8/18～9/27)としたことから、通年で前年比約1割強の減となった。

2 利用者数の確保

	基準(H29)	現状(R3)	目標(R8)	達成見通し	左記評価の説明
利用者数(千人)	53	49	56	要努力	新型コロナの感染拡大に伴う臨時休館により、通年で前年比約1割強の減となった。

主な取組状況

○工業用水道事業

項目	令和4年度実績(見込み)
1 施設の耐震・老朽化対策	
管路の更新	<ul style="list-style-type: none"> ・管路更新の投資額を倍増した。 ・西部工水管路の幹線管路対策強化に向けた検討を開始。 ・民活を取り入れた、発注者支援業務委託を実施。 ・和田川導水トンネルの複線化に向けた検討を開始。
2 IoT等の技術活用による工業用水道管路管理システムの構築	
IoT技術を活用した漏水検知システムの導入	県大とも連携し、工業用水道の小口径(500mm未満)の送水管に漏水検知システムを設置し、システムの能力や使い勝手を検証・評価。令和5年度から漏水検知システムの本格稼働を決定。
AI技術を活用した管路老朽度の評価	AI管路劣化診断に必要な配管ルートやバルブ等の情報をマップ上に入力中。

○ゴルフ練習場事業

項目	令和4年度実績(見込み)
1 収入の確保と経営の安定	
指定管理制度の継続	指定管理(H30～34)の更新(R5～7)にあたり選定委を開催した。
2 脱炭素化等新たな課題への対応	
脱炭素社会の実現に向けた取組みの推進	ナイター照明のLED化(及び遮光ネットの補強)について検討した。

令和3年度「富山県企業局経営戦略」の進捗状況等について【地域開発事業】（富山中央駐車場）

1 経営状況等

○事業実績

	令和2年度	令和3年度
利用台数	49千台	54千台
料金収入	59百万円	59百万円

○決算状況

(単位:百万円)

		令和2年度	令和3年度
収益的 収支	収入	60	61
	支出	35	35
	収支	25	26
資本的 収支	収入	0	0
	支出	38	44
	収支	△ 38	△ 44

2 経営指標

	令和2年度	令和3年度
① 経常収支比率	173.2%	175.9%
② 累積欠損比率	5,195.1%	5,075.5%
③ 流動比率	40.8%	48.3%
④ 自己資本構成比率	△2,020.9%	△2,326.6%

3 取組状況

項目	令和3年度実績等
1 収入の確保と経営の安定	
(1) 駐車場における指定管理者制度の継続	・指定管理者制度(H24～)を継続し、業務効率化に努めている。 (現行契約期間:H30～R4)
(2) 利用者の確保	・アンケート等により利用者のニーズを把握するとともに、ホームページによる情報提供や、近隣施設との連携等を行い、サービスの充実に努めた。 (利用台数:対前年度比9.8%増)
(3) 累積債務(旧スキー場事業)の計画的な償還	・企業局負担債務について、令和3年度末までに約20.4億円を処理し、残る償還予定額は約4.0億円となった。 ・引き続き、駐車場事業で安定的な収入を確保し、累積債務の計画的な償還に努める。
2 施設・設備の適切な維持・改修等	
施設・設備の適切な維持・改修等	・施設の状況や費用対効果も考慮し、安全かつ安定的なサービス提供のため、事前・出口精算機の修繕等の必要な維持・改修を実施。

改定戦略(R4.7改定)に基づく進捗状況

数値目標

1 安定収入の確保

	基準(H29)	現状(R3)	目標(R8)	達成見通し	左記評価の説明
収益(百万円)	68	61	62	達成可能	コロナ前(R1:63百万円)に戻りつつあり、目標まであと一歩となっており、引き続き、安定収入の確保に努めていく。

2 利用台数の確保

	基準(H29)	現状(R3)	目標(R8)	達成見通し	左記評価の説明
利用台数(千台)	66	54	56	達成可能	コロナ前(R1:55千台)に戻りつつあり、目標まであと一歩となっており、引き続き、利用台数の確保に努めていく。

主な取組状況

項目	令和4年度実績(見込み)
1 収入の確保と経営の安定	
指定管理制度の継続	指定管理(H30～34)の更新(R5～7)にあたり選定委を開催した。

【参考】各事業における主な経営指標の算出方法等

経営指標	算出方法	指標の意味	電気	水道	工水	地域
経常収支比率	$= (\text{営業収益} + \text{営業外収益}) / (\text{営業費用} + \text{営業外費用})$	経常費用が経常収益によってどの程度賄われているかを表す指標	○	○	○	○
累積欠損金比率	$= \text{累積欠損金} / (\text{営業収益} - \text{受託工事収益})$	営業収益に対する累積欠損金の状況を表す指標	○	○	○	○
流動比率	$= \text{流動資産} / \text{流動負債}$	流動負債に対する流動資産の割合から短期債務に対する支払能力を表す指標	○	○	○	○
自己資本構成比率	$= (\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{繰延収益}) / \text{負債} \cdot \text{資本合計}$	総資本に対する自己資本の割合で、資本構造の健全性・事業の安全性を表す指標	○	○	○	○
企業債残高対給水収益比率	$= \text{企業債残高} / \text{給水収益}$	給水収益に対する企業債残高の割合であり、企業債残高の規模を表す指標		○	○	
料金回収率	$= \text{供給単価} / \text{給水原価}$	給水に係る費用が、どの程度給水収益で賄われているかを表す指標		○	○	
給水原価	$= [(\text{営業費用} + \text{営業外費用}) - (\text{受託工事費} + \text{材料及び不用品売却原価} + \text{附帯事業費}) - \text{長期前受金戻入}] / \text{年間総有収水量}$	有収水量1m ³ あたりについて、どれだけ費用がかかっているかを表す指標		○	○	
施設利用率	$= \text{一日平均配水量} / \text{一日配水能力}$	一日配水能力に対する一日平均配水量の割合で、施設の利用状況等を判断する指標		○	○	
有形固定資産減価償却率	$= \text{有形固定資産減価償却累計額} / \text{有形固定資産のうち償却対象資産帳簿原価}$	償却資産の原価償却がどの程度進んでいるかを表し、資産の老朽化度合を示す指標	○	○	○	
管路経年化率	$= \text{法定耐用年数を経過した管路延長} / \text{管路延長}$	法定耐用年数を超えた管路延長の割合を表し、管路の老朽化度合を示す指標		○		
企業債償還元金対減価償却費率	$= \text{建設改良のための企業債償還元金} / (\text{当年度減価償却費} - \text{長期前受金戻入})$	企業債償還に関する償還元金とその原資のバランスを示す指標	○		○	